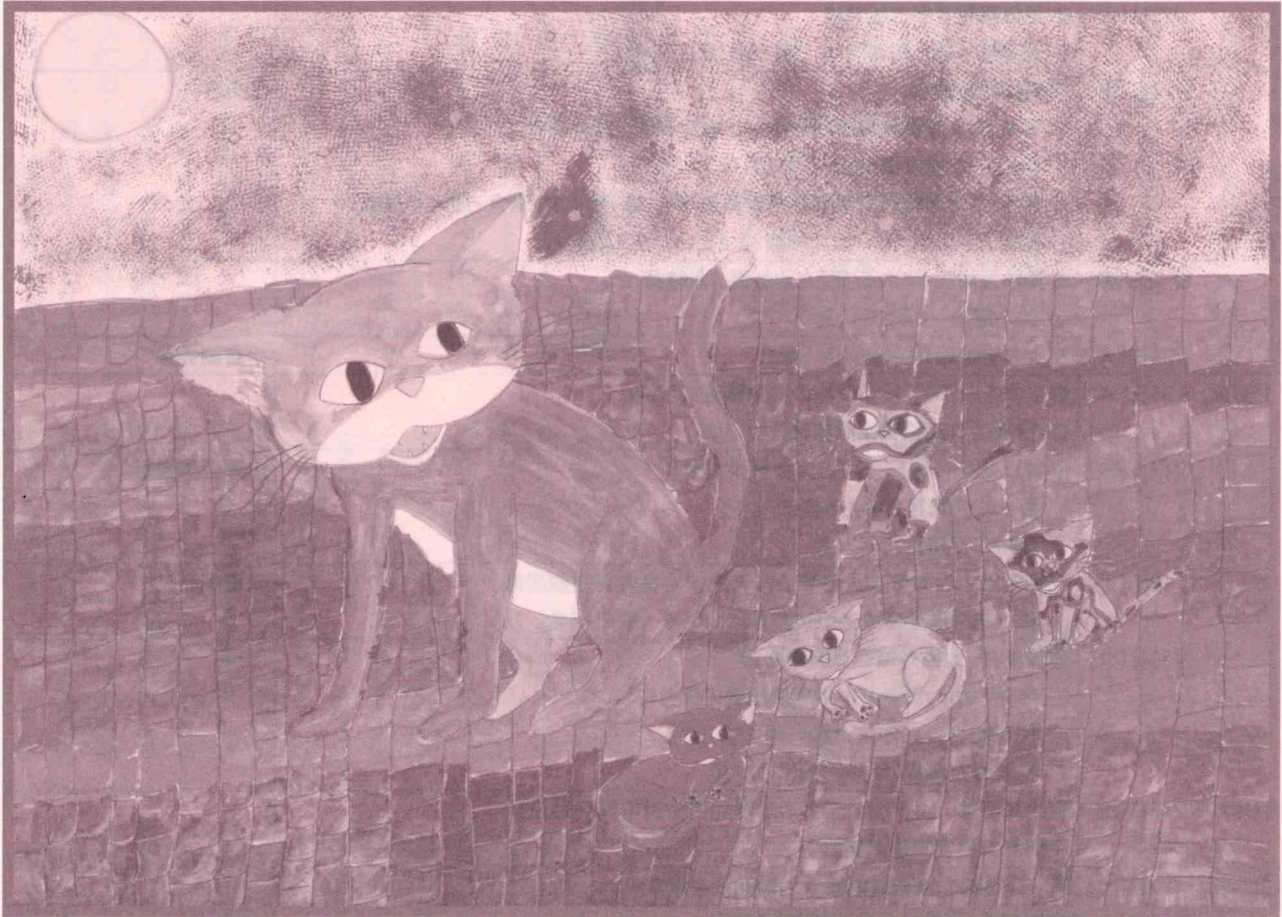


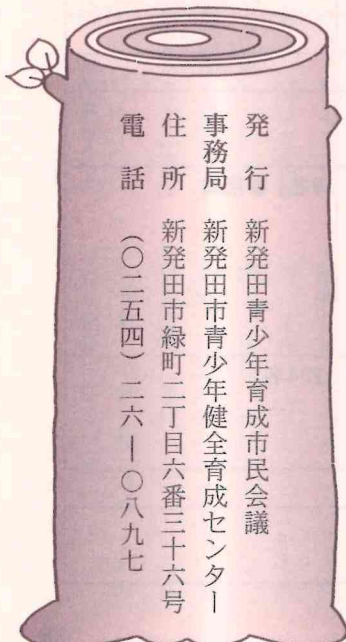
新発田青少年育成市民会議だより

はばたき

21世紀も市民みんなで手をたずさえて



松浦小学校四年 小野 美奈子



春夏秋冬

猿橋中学校 3年4組

俳句作品

春が過ぎ

気分は二年

でも三年

衣替え

みんなの背中が

白くなる

運動会

勝っても負けても

悔いはない

桜がね

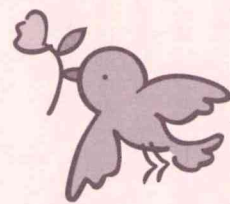
咲いたときには

高校生

平成15年度新発田青少年育成市民会議事業実施状況

実施年月日	事業及び内容	出席者等
平成15年 4/ 6日(土)	会計監査 ◇ 平成14年度分監査	監事2名
/18日(金)	運営委員・地域対策委員合同会議 ◇ 平成14年度事業実績・収支決算・監査報告について ◇ 平成15年度事業計画(案)・予算(案)について ◇ 平成15年度総会について	20名
/22日(火)	市民会議総会案内状発送 ◇ 出席申し込み締め切り 5月18日(日)	
5/24日(土)	平成15年度総会 ◇ 平成14年度事業実績報告並びに収支決算、監査報告について ◇ 平成15年度事業計画・予算(案)について ◇ 平成14年度特別対策事業活動報告(外ヶ輪・佐々木・米倉・加治育成協) ◇ 記念アトラクション(太大神楽・よさこいソーラン踊り)	220名
6/ 2日(月)	会費納入依頼(町内会長、自治会長、連絡員) ◇ 納入期限 6月27日(金)	
/24日(火)	青少年育成県民会議総会 県庁	小倉副会長
7/ 1日(火)～31日(木)	青少年を取り巻く社会環境の実態調査の実施 ◇ 14地区育成協議会の組織を中心に	
/17日(木)	平成15年度全国非行防止大会新潟大会 ◇ 青少年の非行を考える集い ◇ 全国非行防止新潟大会	山野辺副会長
/19日(土)	群馬県高山村教育委員会青少年育成補導推進員視察研修 ◇ 青少年の健全育成活動の実践について 来所15名	森田副会長
/22日(火)	運営委員・地域対策委員合同会議 ◇ 会費の納入状況及び活動助成費の配分について ◇ 14育成協の15年度活動計画について ◇ 特別対策事業の地区指定について	28名
/24日(木)～8/16日(土)	青少年団体、14育成協議会活動助成費交付申請受付及び 特別対策事業実施希望調査	
8/13日(水)～20日(水)	青少年団体、14育成協議会活動助成費助成	
9/ 6日(土)	専門部会(組織強化検討部会)会議 ◇ 地区青少年健全育成組織の活性化について	11名
/17日(水)	特別対策事業指定地区助成(3地区)	
10/15日(水)	市民会議だより「はばたき」の発行	
11/ 1日(土)～30日(日)	全国青少年健全育成強調月間 ◇ リーフレット及び啓発用ポケットティッシュの配布	
/20日(木)	平成15年度「地域で青少年を考える集い」及び「青少年育成市町村民会議活性化研修会」 会 場 新津市保健福祉センター 参加者 役員(正副会長・運営委員・地域対策委員) ◇ 活動事例発表「新発田青少年育成市民会議の取組」 ◇ 分科会	9名、事務局
平成16年 1/10日(土)	青少年健全育成講演会 ◇ 演題「青少年とどう向き合うか」 ◇ 講師 新潟青陵大学看護福祉心理学部教授 碓井 真史先生	224名
3/15日(月)	市民会議だより「はばたき」の発行	
(その他)	正副会長会議7回開催 広報・啓発部会13回開催	

有効に使われた特別活動助成金 3地区の活動報告



特別活動助成金の交付を受けた3地区では、地区の特色を生かした活動を実施されました。

子どもの活動では、その自主性や主体性を大切に、楽しさや充実感が得られるよう配慮する必要があります。報告された活動実践にも子どもたちを健やかに育てようとする意欲が感じられます。

家庭も地域もさわやか一声運動！

二葉地区青少年育成協議会

会長 前田 一三夫

二葉地区では、五つの事業に取り組んでいます。

①クリーン作戦

親子そろって、空き缶やゴミを拾いながら、町内・地域を大切にすることを育んでいます。

②講演会

新発田市内在住の講師をお招きし、地域を見つめ直したり、交流を深める機会としています。

③青少年を取り巻く環境調査

学区内のゲームセンター・書店などを見回ります。

④広報の発行

年二回の育成会だよりを発行し、取組の概要を紹介していきます。

⑤標語募集活動

毎年テーマを決め地域住民の方々と、子どもたちから標語を作ってもらっています。

このような取組を地道にやってきましたので、今では暖かいほのぼのとした地域の輪が広がっています。

今年度、この暖かい地域の輪を基盤にして、地域の皆様がさわやかにあいさつをかわす。

○子どもたちが自らの命を守るために大切なこと。

○地域の人たちから気軽に声をかけてもらいたいこと。

など三つの内容を盛り込んだ啓発ポスターを作成しました。

始まったばかりの新しい取組ですが、

地域の皆様

方のご協力

を得ながら、

さらに暖かい

輪を広げてい

きたいと思っ



三世代ふれあい料理教室(笹だんごづくり)

東豊学区青少年育成協議会

会長 富樫 政晴

例年、当育成協では三世代の交流を深めるいくつかの事業を行っております。今年度は

これらの事業に加え、三世代による地元の名物料理づくりへの挑戦を企画しました。今回

「笹だんごづくり」を選んだのは、地元伝統的な食べ物で、今でも世代を問わず人気のある笹だんごですが、いざ作れる人となると限られた方であり、その笹だんごづくりを三世代交流の好機と考えたからです。

笹を探ることから始めようと計画したのですが、天候不順が続く、役員だけの作業になりました。

二月一日当日は東豊小学校をお借りして小

学生・幼児五十八人と大人を含めた約百人が笹だんごづくりを行いました。指導者を市内

「高田屋」さんに依頼し、地域のおばあちゃん三人からも手伝ってもらいました。生地で

だんごを作り、丸めたあんこを包み、笹で巻いて、最後は、い草で縛る作業です。指導者・協力者や年配の参加者が親や子どもを手

をとって教える微笑ましい三世代交流の様子が随所に見られました。蒸している十五分間、

子どもたちはじっと蒸し器の脇で待ち遠しそうにしていました。そして、いよいよ試食会。

笹のいいにおいが漂う中

「おいしい、おいしい」という声でいっぱいになりました。

今後、地

域の三世代の

ふれ合いの輪

が広がり、深

まっていける

ような企画を

考えていきたく



秋の親子ふれあい大感謝祭！

猿橋小学校区青少年健全育成協議会

会長 松川 康男

ここ数年当校区

は、人口、児童数

が増加しておりま

す。校区内に十三

の子供会があり、

規模は様々です。

会員数八名の所か

ら百八十名余りの

所まで、各子供会

で子供が活動しや

すいように色々の

行事を計画実行し

ております。

また当協議会では、毎年、各子供会の年間

行事計画を頂き、検討しています。その結果、

各子供会とも九月から十二月半ばまでをさら

に充実しようと、親子で楽しく過ごしてもら

う行事を計画しました。各子供会の役員の



方々から協力して頂き、全ての子供会の子供達に参加してもらうことにしました。

行事名を「猿橋小学校区子供会オースタムフェスティバル」として、全戸配布のチラシを五〇〇〇枚作り配布しました。内容は、ゲームコーナー、工作コーナー、アトラクション

コーナーと三つのコーナーを作りました。ゲームコーナーは空缶釣り、ダーツ等五個のゲーム、工作コーナーは、十二月のXマス用として松かさを利用してミニXマスツリー作り

を、アトラクションコーナーでは、ボランティア協会のマジシャンの方からマジックを見せて頂きました。各コーナー共に予想以上の

状態で終了することが出来ました。

実施日 平成十五年十一月十六日(日)

場所 猿橋小学校体育館

参加費 子供 百円

参加者 子供 三三二名

保護者 八十五名

特集



主題を考える

先号に続いて、家庭・家族のすばらしさ、大切さについての特集をお届けします。

家庭において、それぞれが、それぞれの存在を尊重し、愛情いっぱい支え合っていくことが暖かな家庭を築き、心豊かに過ごし合えるのだとの思いでの特集です。

とりわけ期待大きい青少年の一層健全な成長を願って、今、いろいろな場面で、家庭や家族のあり方が見つめ直され、その大切さが強調されています。

家族は かけがえのない 宝物

そうした中で、今回は、
○家庭の歩みの中で、家族が互いに尊重し合う様子。

○愛情豊かに支え合っていく様子。

等々、ただ大事だというばかりでなくて、日常の中の具体的な姿・様子を通して、このことを改めて考えてみる、学んでみる機会にできたら幸いと思っています。

そして、このすばらしい家庭・家族への貴重なみんなの思いがしっかりと息づいていて、次代を担う青少年の実り豊かな人生のために大いに資することを心から願っています。

子どもの感性を育てる



新発田青少年育成市民会議

地域対策委員長 横坂 宣弘

子どもを育てる家庭の役割に、「心を育てる」という大切な働きがあることは、皆様よくご承知のことです。

その働きの中で、いま強く求められていることは、子どもの「感性を養う」ことであります。

子どもの心は、世の中や人々の動きや、自然の姿から刺激を受けて、形づくられていきますが、大事なことは、子ども一人ひとりが、その刺激をどう感じとり、どのように自分のものとしていくかです。

「感性」とは、刺激を感じとって自分の糧としてとりこむ力であり、「感性を養う」とは、その力を身につけさせることです。

感性が養われた子どもは、身のまわりのものごとにふれて、

○人間の生きる姿や、動、植物の生命の営みの尊さ深さ、

○自然が造り出す美しさや芸術の美しさ、

○人の気持ちのありがたさ、あたたかさ、

○してはいけないこと、し

なければならぬことの正しさ、

に気づいたり、感動を受けて、きつと「あ、そうだったのか」「そんなに素晴らしいことだったのか」「よし、自分もやってみよう」とか、「自分もそうしなければ」と、明日からの生活の様々な場面へ動機づけられていくと思われま。

現代の子どもたちの生活場面を見ると、残念ながら「感性」が育ちににくい背景がみられます。

一つは、少子化で集団遊びが少なく、またテレビやゲームでの孤立した遊びなどで、多くの友だちとのかわりが少なく、人の痛みや心情にふれる機会が乏しくなっているようです。また、その乏しさが友人間の緊張を生み、情緒不安のもとになっているようにも思われます。

二つには、自然体験の機会が少ないことです。都市化や合理化が進み、その機会が得にくいことに加えて、家族のレクリエーションや団らんも身体負担を避ける傾向にもよっているようです。

時代の動きの中で、教育の視点をしっかりとちたいものがあります。

「感性を養う」ために、子どもたちにどのように働きかけたらいいかを、いくつかの例で考えてみましょう。お父さんお母さんの体験、経験したことを話して聞かせることが大切です。

○身辺の人たちの「生きる姿」に気づかせる。

- ・ 困難な条件のもとで働いている苦勞の様子
- ・ 「一人暮らしの高齢の方」、不自由な方のご苦勞
- ・ 知り合いや職場で、ものごとに取り組んでいる方の努力

○四季の移り変わりの「確かさ」や「美しさ」に気づかせる。

- ・ 季節々々の木々や草花の息吹とその神秘さ
- ・ 山野、田畑をみての潤いと安らぎ

○社会生活でのマナー、心得に気づかせる。

- ・ 社会生活の中の快、不快と、お互いのあり方
- ・ 他者とのふれあいの必要

○家庭内の行事で、家族の一体感を気づかせる。

- ・ お盆や誕生日、親戚との集まりをとおしての自覚

このような話が、やがて子どもたちの経験をとおして、理解が深められ、生きてくるものと思います。

◆ぼくの宝物

南高等学校一年 伊保橋 正也

病室一杯の機械に囲まれながら、体には何十本の管や注射につながれ、喉には人工呼吸という、ぼくの知らないおばあちゃんがあった。毎朝、ぼくを見送ってくれるおばあちゃんの顔を、そういえば、今朝は見えていない。訳の分からないまま、ぼくは、学校から病院に直行した。緊急手術をしたことだが、おばあちゃんはいつもぼくの側にいて、離れることなく永久にないと思っていた。又、一度も考えたこともないのに、あまりに

◆心の支えの一つは

豊浦中学校三年 難波 友美

私には最近気になっている二ユースがあります。それは乳幼児虐待や、家族間での殺人、一家心中等の家族内の事件です。数年前、そんな二ユースはあまりなかったと思います。しかし、ここ最近では思わず目を背けてしまうような事件ばかりが絶え間なく続いています。

例えば「一家心中」という事件。生活苦を感じた父親が寝ている息子達を殺し、自分も命を絶つ。父親は何がしたかったのでしょうか。未来ある息子達を

なるのではと心配しましたが、みんながお互いを思いやっている気もちに変わりなく、それぞれの役割を果たそうと必死になっているところを見ると、家族に絆が前にも増して強くなったのではないかとさえ感じた。何の変化もない平穏な時には、家族のありがたみや大切なことに気づきもしなかった。家族全員が、元気でいる時が一番幸せだったんだなあと、つくづく思った。早く元気になって、これからもうつとみんなで楽しく暮らしていきたいね、ぼくのおばあちゃん。

合える家族がいることは大きな心の支えになります。私の場合、特に母とは何でも話すようにするし、大笑いしながら話をすることもあります。そうしてすっきりしたり、考えさせられたりと良い心の栄養（支え）になります。

家族の存在はあたたかく、かけがえのないものです。だからこそ大切に・仲良く生きていきたいです。また、私としては最初に書いたような事件が少しでも減るように、「心の支えとなるあたたかい家庭」が増えるといいなと思います。

◆我が家のコミュニケーション

豊浦中学校 PTA会長 布川 伸之

我が家においてコミュニケーションの手段は何か？と問われた時、家族の一人一人はバレーボールと答えます。妻はもとより、中三の受験生、小五の娘とバレーボールを通して家族の会話がはずんでいきます。

私自身はバレーとは縁がなかったのですが、今から六年前に校長先生のご理解から本田小バレーボール部を発足、当時活動してくださった先生の熱意と、その先生を心から慕っている子供たちの姿に感動したのがきっかけとなり、今では私にとつてバレーボールは家族とのコミュニケーションをとるのに不可欠なものとなりました。

また、バレーボール部の活動を見守っていく中で、部活を通して先生と子供たちの信頼関係や子供たちの連帯感、そして保護者の方々と地域の人々と学校とのコミュニケーションがうまく取れていくことを見ることでできました。私も、部活を応援しながら、人との触れ合いの大切さ、子供の視点から見た子供の考えのすばらしさを学ぶ事ができました。

中三の息子は、高校進学にあ

たり、現在バレーをコーチしてくださっている先生の高校を選択し、今から高校でのバレーを楽しむにしております、小五の娘は中学校でのバレー入部を今から楽しみにしています。子供たちが目標を持って毎日をすごす姿は、親である私たち夫婦にとつても嬉しい事であります。

六年前にできたバレー部、その部に入った息子、バレー部の先生の手伝いに毎日足を運んでいる妻、それを見て育った娘、文句を言いながらも応援している私。これからもバレーボールの事で家族の話が盛り上がり、時には喧嘩になるかも知れませんが、しかし、バレーボールは我が家にとつて大切な宝物です。最後にこの文面をお借りいたしました：今まで子供たちの部活動に多くの方々の応援をいただきまして本当にありがとうございます。そして現在日々部活動を見てくださっている先生方、応援してくださっている教職員の皆様、今後ともよろしくお願いいたします。そして、毎日放課後に学校へ通っている私の奥様、お疲れ様です。これからも頑張ってください。

青少年健全育成講演会(平成十六年一月十日)

青少年とどう向き合うか

講師 新潟青陵大学教授

碓井真史 先生

「子ども達一人一人に、スポーツ
トライトがあたるステージ」を
与えられる事があつたらよいと
思います。

今の若者は、何か心が満たさ
れていないような感じがしま
す。

成人式で、若者が問題を起こ
していますが、騒ぐ若者達は、
口では言いませんが、かまっ
てもらいたい、相手をして欲し
く
てたまらないのです。

非行少年は、猛烈に愛を求め
ているのに、甘えたり、頼るこ
とができず、強がるしか自分の
心を保つていられずいます。
必死になって、叫んでいる行動
が、非行や問題行動になってし

まうのではないで
しょうか。

今の子ども達
は、大人になりた
くないと思ってい
ます。ああはなり
たくないと考えています。私た
ち自身が、きらきら輝くような
人生を歩んでいたなら、子ども
達も違って来ているはずで
す。そのような姿を子ども達に見
てあげたいと考えます。

スポーツや勉強が苦手な子ど
も達にとって、人の注目を集め
る方法が、非行になり易いので
はないでしょうか。それは彼等
にとっては、意味のあること、
価値の高いことですが、大人は
認めてくれません。しかし、同
じような仲間の不良グループが
集まると、皆共感してくれるから
居心地よく感じてしまうのだと
思います。

昔は、不良グループには、必
ずガキ大将がいました。統制が
とれていました。今は、親分、
自分の関係がなく、集団心理で
どんだんエスカレートしてい
ます。この集団には、本能が働
かず、集団での暴行などで、少
年が死んだりしてしまふことも
あります。

こういう少年達に、罰を厳し
くしても効果はありません。子
ども達にとつて、無視されるの
が一番つらいことです。非行少
年の家庭環境はいろいろです
が、共通しているのは、愛され
ていないという感覚を持つてい
ることです。

母親の悲しんだ顔が思い浮か
ぶという、この親子の愛が非行

のブレーキになり、罰より社会
との絆、つながりが犯罪のブレ
ーキになるのではないでしょ
うか。

暴走族の少年達の七割が、親
は自分に期待していないと思っ
ています。親は、子どもがすべ
て受け入れてもらえていると感
じるように温かく見守ることが
必要です。

自立、自己決定、自分の意志
を言葉で表すことなどができ
る前提には、親から愛されている
という実感があると思うので
す。愛されている人は、本当に
悪いことはできません。

今日の演題の中に、答えがあ
ります。青少年と向き合うこと、
そう思っている人々は、青少年
にとって大きな力になります。
心が傷ついている子ども達こ
そ、向き合うことを求めている。
怒り、悲しみ、不安を持ち合わ
せている子の心に対して、向き
合う気持ちを持つことが大切で
す。

今の若者達も、昔と同じ気持
ちを持っていますが、表現の仕
方が変わってきています。何か
しらおもしろいこと、生きがい、
やりがい、人生の目標を求めて
います。そして、それを見つけ
る手だすけをすること、それこ
そ、大人の出番なのです。こう
した指導があれば、徐々に、地
域社会全体が良くなって行きま
す。

今、青少年が、本来持つてい
るやる気、やさしさを、もう一
度呼び起こすため、私達が、皆
で協力し合って、やっていけ
たらなあと考えています。

平成16年度市民会議総会のお知らせ

開催日 平成16年5月22日(土)
場 所 生涯学習センター

●市民のみなさんの会議です。多数の御参加をお待ちしています。

おわりに

豊浦地区からの貴重な御寄稿
をいただいたのをはじめ、各界
でそれぞれ御活躍の方々からす
ばらしい御意見をお寄せいた
だき、今回は前号に続いて、青
少年の健全な成長を願うて、家
庭・家族の大切さについて、特
集をすることができました。述
べていただいた熱い願いと営み
は、掛替えのない大切な御教示
なのだ感謝しております。

特に、お寄せいただいた御提
言の中で、青少年の感性を豊か
に育てることの大切さとその方
途を説いていただいたりありま
す。これこそ、家族の中での暖か
い絆によって成されるものとの
御示唆をいただいたように思
いました。ありがとうございます。

また、恒例の講演会でも貴重
な御指導をいただき、本年度特
別対策事業実践地区からも熱心
な活動展開についてお知らせい
ただきました。いずれも次年度
に結ばれる大事な成果だったと
嬉しく存じております。
ようやく春。皆様のますます
の御健勝を祈ります。

(文責・五十嵐)

編集部

彌子子苗
憲清美早
嵐橋村川
五十嵐皆